基　礎

心不全の定義がなぜ必要か？

Why is the definition of heart failure for general population needed ?

奈良県立医科大学循環器内科
教授　斎藤能彦　*Saito Yoshihiko*

KEY WORD
心不全の定義，脳卒中と循環器病克服５ヵ年計画，心不全リスク

はじめに

2018年３月に「急性・慢性心不全診療ガイドライン(2017年改訂版)」が日本循環器学会と日本心不全学会より合同で発表された(班長：筒井裕之)。そこにはガイドラインとしての定義と一般向けにわかりやすくまとめた２つの定義が記載されている[1)]。

ガイドラインとしての心不全の定義は，「なんらかの心臓機能障害，すなわち，心臓に器質的および/あるいは機能的異常が生じて心ポンプ機能の代償機転が破綻した結果，呼吸困難・倦怠感や浮腫が出現し，それに伴い運動耐容能が低下する臨床症候群」と記載されている。また，一般向け定義では，「心不全とは，心臓が悪いために，息切れやむくみが起こり，だんだん悪くなり，生命を縮める病気です」と説明されている。前者は，病態をより正確に定義したものであり，後者は，一般人に心不全とはどのような症状があり，その結果どうなるのか？という点に重きが置かれたものである。

一般向け心不全の定義は，2016年に日本循環器学会と日本心不全学会が共同で，「脳卒中と循環器病克服５ヵ年計画」の最初に行ったミッションとして定義したものであった[2)]。本稿では，どのような目的で(意図をもって)作成されたのかを，当時，定義の作成にかかわった者の１人として解説したい。

心不全医療の重要性

わが国が超高齢社会に突入したことは周知の事実である。また，少子化の影響を受け，わが国の全体の人口は徐々に減少してきている。そのなかで，75歳以上の後期高齢者の人口は今後20～30年増加することが予想されている。一方，日本循環器学会が毎年，日本循環器学会専門医研修施設と研修関連施設を対象に実施している循環器疾患診療実態調査(JROAD)では，入院を要した心不全の平均年齢は75歳であり，2012年より毎年１万人ずつこれらの病院への入院数が増加している。これは急性心筋梗塞がこの数年微増傾向であることと比べて特徴的である。心不全の好発年齢である75歳以上の人口が今後20～30年増加することを考えると，今後心不全患者の実数が増加するとともに，循環器病のなかで心不全医療の重要性がますます増加すると考えられ，ある予測では2035年には心不全症例数は130万人に達すると考えられている。

また，わが国は長寿社会を達成した

SAMPLE

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.